

人間の尊厳

河内 利 治 (君 平)

Toshiharu (Kunpei) Kawachi

對等に接すること

それは人間の尊厳である

映画42世界を変えた男より 君平かく

この言葉を書こうと思ったのは、八月下旬の北京行きANAの機内で、ハリウッド映画「42世界を変えた男（原題「42」）を見て感動したからである（日本封切は十一月一日）。英語（日本語字幕）を聞きながら、涙しながら見終わったとき、私の脳裏に自然とこの言葉が宿った。人間の尊厳とは何か。それは人種の差別、能力の有無を超えて、人と人が對等に接することに他ならない。それを書き留めておきたい。そう願ったからである。

一九四七年、ひとりのメジャーリーガーが誕生する。彼の名はジャッキー・ロビンソン。背番号は「42」。当時、白人選手だけで

構成されていた四〇〇人のメジャーリーガーの中でたったひとりの、そして初めての黒人選手だ。そんな彼を待っていたのは、出ていけ！の大合唱。敵は相手チームだけではない。観客、マスコミ、時には審判、そしてチームメイトさえ、まわりじゅうのすべてを敵にまわす中、何にも屈せず、やり返さず、ただ黙々と渾身のプレーを続けることで、彼はそこが自分のいるべき場所であることを、自ら証明してみせていく。そして世界は少しずつ、しかし確実に変わり始める。

——公式FB (<https://www.facebook.com/42moviejp>) より

映画のストーリーは右の如くだが、MLB（メジャーリーグ・ベースボール）では、年に一度、四月十五日に開催される試合で、全選手が背番号「42」をつけて出場する。四月十五日なのは、ロビンソンがメジャーデビューをした日だからである。このことを知ったのは、二〇〇六年度、ボストン・レッドソックスのファンになってか

らだが、映画「42」を見てはじめて、黒人選手に敬意を表してのことであったことが理解できた。

折しも今年、ニューヨーク・ヤンキースのクローザー、マリアーノ・リベラが引退する。彼が現役で唯一背番号「42」の選手であった。彼はロビンソンの背番号を記念する以前から「42」をつけていたのである。これで全30球団の永久欠番になった。

映画「42世界を変えた男」公式HP (<http://www.warnerbros.co.jp/42movie/>) に、次のような言葉と、詳細な生涯が綴られている。

“A life is not important except in the impact it has on other life’s.”

「ほかの人々に影響を与えこそ、人生は重要なんだ」

——ジャッキー・ロビンソン

彼は引退後、そして死後も人々に影響を与え続けている。それは、一人の人間としての尊厳にほかならない。

MLBは、アメリカのスポーツを代表するだけでなく、アメリカ文化の核心であると、ボストンで暮らして実感した。このアメリカ文化の核心を、中国文化の核心である「書」で表現することは、現代のようなグローバル時代ならではの試みであると考えている。



138.4×34.8cm